

西条市青少年健全育成市民大会が、平成25年7月20日、西条市丹原文化会館大ホールで行なわれました。大会には、市内の26地区から市民約400人が参加し「声かけてあの子どもこの子ども 地域の子」をテーマに、あの子もこの子ども 地域の子」をテーマに、地域の連帯を密にして、安心・安全のまちづくりの実現をめざそうとの趣旨で開催されました。

ことしの大会は、『活動に新しい風を』と、「子どもたちと楽しく遊び、青少年健全育成活動を活発にしよう」とのねらいで、愛媛県総合科学博物館の出張講座として「ゆらゆらバランス大実験」と、日本のお手玉の会の「お手玉遊びのお話と実技体験」が行なわれました。

日本のお手玉の会の講座は、武田信之理事が担当しました。

まず、講話では、「手から心へ、ぬくもりを！」お手玉遊びで高齢者と孫世代の交流」の演題で、「隔世伝承」のお手玉で三世代交流、お手玉遊びで心と体のバランスを、みんなで一緒に遊ぶ大切さを体験について話しました。

『お手玉遊びの体験』では、参加者全員にお手玉を配り、1個〜2個の『お手玉』でできる遊びを体験してもらいました。

また、舞台上に、子どもから高齢者まで20人あまりに上がってもらい、2人でできる遊び、両手2個ゆり、片手2個ゆり、お手玉回しによるコミュニケーションゲームなどを、真剣に、しかも楽しみながら笑顔で挑戦していました。

愛媛県西条市青少年健全育成市民大会

「声おかけて あの子どもこの子ども 地域の子」をテーマに

お手玉遊びで高齢者と孫世代の交流



青少年健全育成市民大会で講演 輪になって、「あんたがたどこさ」



若返ることができた。きょうから、始めます。

大会の終了後、83歳の男性が楽屋を訪ねてきてくださり、次のように話してくれました。「きょうは、楽しいお手玉遊びを紹介してください。ありがとうございます。お話のようには、お手玉で若返ることができると実感しました。きょうから、お手玉を始めます。お手玉をすることで、みんなの平均寿命が1年の延びること間違いありません。感謝しています」。



多くの方が会場の席でお手玉を練習



武田理事が簡単なお手玉のゆり方を指導